

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270500309		
法人名	医療法人守生会		
事業所名	医療法人守生会グループホームひまわり		
所在地 (電話番号)	〒037-0016 青森県五所川原市一ツ谷字一ツ谷508番地12 (電話) 0173-34-5551		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 11月 16日	評価確定日	平成 20年 1月 30日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	5階建ての 階 ~ 4階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	6,000~冬季12,000円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 87.3歳	最低	76歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人守生会 中村整形外科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>五所川原市の中心部に近い一ツ谷地区にある。整形外科医院の4階を居住スペースに改築した1ユニットのグループホームである。入居者の健康管理や定期受診、緊急時の対応に関しては、病院の中で生活している安心感があり、入居者・家族からの信頼を受けている。毎月のケア会議には、家族が参加してケアプランの作成・見直しの意見交換をしている。町内会を中心に地域交流も盛んであり、年中行事を通して相互に参加・交流を深めている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題については、広報紙を年4回発行。紙面はカラー印刷されており、地域や家族からの評価も高い。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者・職員が時間をかけて会議の時間の中で検討し記載した。8月から職員が1人10項目を担当して発表し、1項目ずつ全員で検討した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>討議内容は、利用者の状況報告、サービス状況、緊急時の対応、職員研修、外部評価、納涼祭行事の反省等について意見交換をしている。職員研修については、管理者の意向により、職員を外部研修に積極的に参加させている。内部研修は、ケア計画会議終了後に時間をとり、復命後の研修発表や権利擁護等の研修を実施しており、人材育成に力を入れている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>家族の意見は、担当する職員が聴いて報告しているが、月2回のケア計画会議に1家族ずつ会議に出席してもらい、日頃の意見等を聴いている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会との関わりは、町内会の納涼祭や文化祭に参加している。また、管理者が町会婦人部に参加しており、町内会行事の手伝い等を行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で見直し作成した事業所の理念があり、職員・家族は周知している。地域交流は町内会を中心にすすめられており、考え方をもって臨んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、月2回の会議や日々の取り組みの中で、理念を共有し実践している。季刊広報紙には毎号に施設理念を掲載している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会の納涼祭や文化祭に参加している。また、地域の小学校や高校のボランティアの訪問・慰問があり交流を深めている。ホームが病院の4階にあることで気軽に立ち寄ることは難しいが病院の受診のときに、顔を見に立ち寄る方がいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員は、本年8月頃から自己評価に取り組み、全員で話し合いを持ちながら各項目のチェックをしてきた。また、前回の指摘事項(広報紙の発行)については、すぐに実行改善した。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。ホームでの行事や評価の取り組み状況、緊急時の対応、防災関係等、意見交換を行いサービスの向上に活かしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>五所川原市の直接運営する地域包括支援センターが主催する毎月の地域ケア会議に参加している。会議の中で情報交換を行ったり、虐待のケースについて相談したりしている。、市職員担当者と課題解決やサービスの質の向上にむけて取り組んでいる。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>月2回のケア会議の後に内部研修を実施して、権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年1回虐待防止の研修に参加している。参加した職員は、研修報告を行い、マニュアルの理解を深め高齢者の虐待防止を徹底している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分に本人家族に説明し十分な理解・納得を得ている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、家族に対して本人の状況報告と出納帳の承認を得ている。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月2回のケア会議には、家族に参加を呼びかけて、意見を述べてもらっている。また、毎月の家族向けの便りの中に苦情の窓口を明示している。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職については入居者に早めにお知らせしてダメージを小さくするとともに、引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画を立てており、職員全員が研修に参加している。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、グループホーム協会の役員をしており、他同業者との交流を持っている。また、年2回のグループホーム協会主催のケース検討会を開いてサービス向上への取り組みをしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事業所等からの紹介があったときから利用者・家族と面接し、心身の状態や本人の思いを聴き不安の解消をはかり、安心してサービスを開始できるように調整している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご本人のできること、嫌いなことを確認しながら、共に支えあう関係づくりをしている。書道の好きな入居者から学びながら、作品づくりをしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前・入居時に本人・家族から思いや暮らし方についての情報を収集しアセスメントに記載して、会議の中で話し合っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケア会議には、家族に参加してもらって介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。また、心身の状態が変更したときは、その都度、再アセスメントを実施して見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院は、入居前の主治医をそのまま継続して支援している。自宅への外出や帰宅希望の強い方に対しても要望に応じて対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科・耳鼻科等希望に応じてかかりつけ医の受診を支援している。通院が毎日継続するときは、家族に協力を求めることもある。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの同意書をとっている入居者がおり、職員全員で方針について検討し、情報を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の声がけ・誘導は、本人の状態を見て判断して行なっている。例えば、モゾモゾしたりしているときはトイレに行きたい合図として、さりげなく誘導する。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを重視し、自宅にいたときに行っていたこと、好きなことをホームで継続できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者と職員がゆっくりと会話をしながら楽しんでとれるように気遣いがなされている。食事の準備では、ゆで卵を作ったり、食後は茶碗を洗ったり職員と一緒にこなしている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、午後の時間帯に実施している。ゆっくりと時間をかけてひとり一人入浴している。順番や時間については入居者の希望に応じて行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえ(野菜やゆで卵等)や準備・後片付けを職員とともにしている。また、洗濯物のたたみやプランターで作っている野菜の水遣り等ひとりひとりが役割を持ちこれを支援している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺に散歩コースがあり、晴天の時には気軽に外出している。また、近くの店に食材購入に行ったり、スーパーマーケットへの買い物やジャスコ・ヨーカドーへ外出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が介護の場面で身体拘束をしないケアを指導している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は扉に鍵を掛けていない。階段を自由に昇降できる。エレベーターは、扉の開閉等の危険があるため、職員が同行している。夜間は防犯のため、施錠している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	医院の消防訓練に合わせて、年2回実施している。また、職員は救急救命の講習を受け、心肺蘇生法を学んでいる。緊急連絡体制はある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医院の栄養士が作成している献立を参考にして、栄養バランスに留意したメニューにしている。水分量はチェックリストに記入して必要量を確保している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症や食中毒のファイルがあり、予防や対応の手順がある。手洗い・うがいの徹底や内部研修を行っており予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院の4階病棟を改築し、使用しているので一般的な家の間取りではないが、それなりに工夫して居心地よく過ごせるようにしている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッド・ロッカーのほか、利用者自身の洗濯物がかけられ、整頓されている。家庭から写真・筆筒や仏壇を持ってこられ馴染みの物に囲まれて居心地よく過ごせる工夫が見られた。		

 は、重点項目。